

トラック輸送情報（平成20年4月分）

平成20年7月16日

国土交通省 総合政策局 情報管理部 情報安全・調査課 交通統計室

担当：桑原、佐藤 内線 28722

直通：03 - 5253 - 8346

ホームページ：http://toukei.mlit.go.jp/

1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

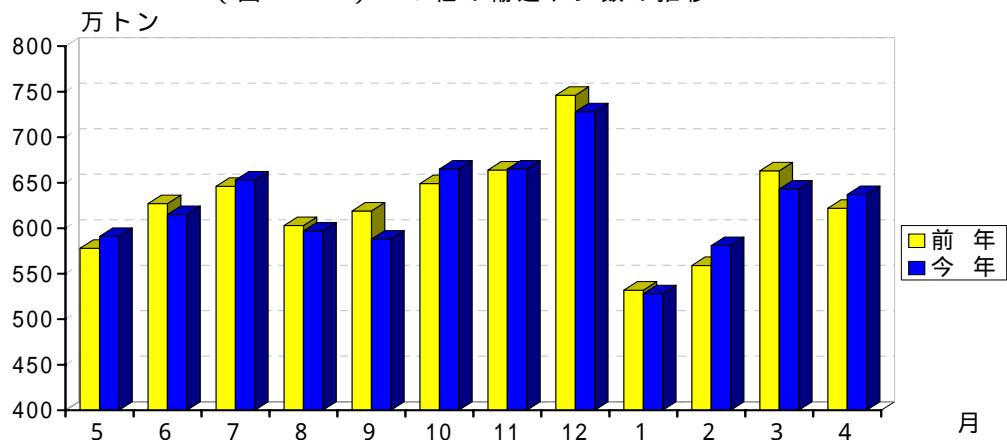
調査対象26社の本月の輸送量は、6,370,791トンで、前月と比べ総輸送量が約6万トン減少したため、前月比99.1%（季節調整済み99.7%）となり、前年同月との比較では、約15万トン増加したため、前年同月比102.5%の実績であった。

なお、平均稼働日数は24.2日で、前月と比べ0.1日の減少、前年同月と比べ0.6日の増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、263,256トンで、前月と比べ約1千2百トン減少したため、前月比99.5%となり、前年同月との比較では、約2百トン減少したため、前年同月比99.9%の実績であった。

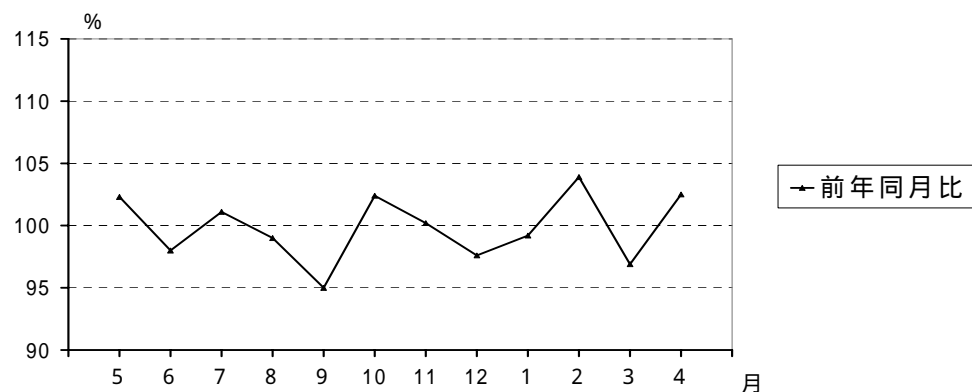
（図1-1、図1-2参照）

注）当月から貨物輸送の調査対象については、従来対象としていた7社の合併により26社となった。

（図1-1）26社の輸送トン数の推移



（図1-2）26社の輸送トン数の前年同月比



(2) 宅配便の概況

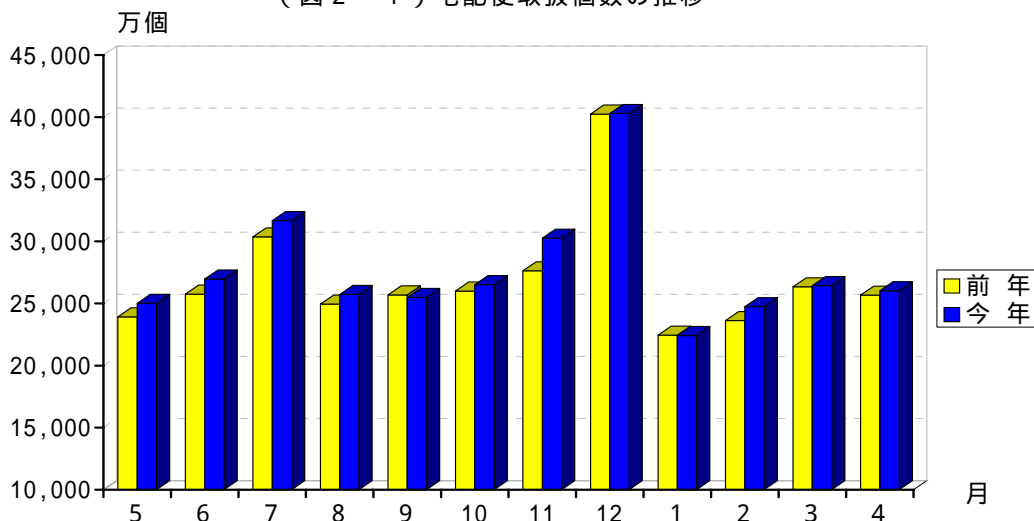
調査対象 20 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、260,205 千個で、前月と比べ 約 421 万個減少したため、前月比 98.4% (季節調整済み 100.2%) となり、前年同月との比較では、約 355 万個増加したため、前年同月比 101.4%の実績であった。

(図2 - 1、図2 - 2 参照)

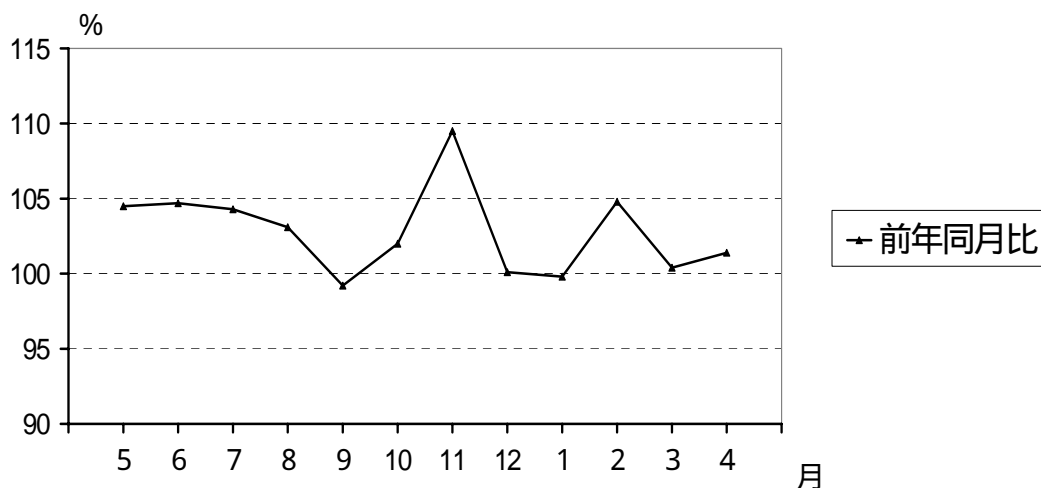
注) 当月から宅配便輸送については調査対象が 1 社増え、20 社となった。

対前年同月比並びに対前月比は、20 社ベースで比較している。

(図2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 26 社の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、年度末にともなう需要増が終了したことにより全体としては貨物量が減少した。品目別では、「機械」及び「化学工業品」で増加がみられた一方で、「日用品」及び「その他 (宅配便、百貨店配送品)」で減少がみられた。要因としては、「化学工業品」が季節的需要増、「日用品」が商社・問屋からの貨物減、「その他」がデパート・スーパーからの貨物減によるものであった。地域的には、「機械」が東京で、「化学工業品」が関東地方、兵庫で増加し、「日用品」が北海道、東北を中心に全国で、「その他」が全国的に減少した。

前年同月と比べると、輸送量が減少した品目もみられるものの、「機械」、「繊維工業品」及び「日用品」で貨物量が増加したため、全体としては貨物量が増加した。工場・生産地からの貨物増が主な増加要因であった。地域的には、主に東京、大阪、兵庫等で貨物量の増加がみられた。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因
	著増	増	変らず	減	著減			
前 月 に 比 べ て	農水産品	1	1	14	2	1		
	金属製品		4	16	1			
	機 械	1	4	15	1		その他の機械、機械部品 東京	
	化学工業品	1	6	13	3		その他の化学工業品 関東地方、兵庫	8
	繊維工業品		4	17	1	1	神奈川	
	食料工業品		5	13	3		関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、九州地方	4
	日 用 品		3	13	7		東京、大阪、兵庫 書籍・印刷物、その他の日用品 北海道、東北、全国	5
	そ の 他		4	8	8	2	宅配便、百貨店配送品 全国	2
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		3	14	2			
	金属製品		4	14	3		その他の金属製品 中国	
	機 械	3	2	14	2		機械部品	4
	化学工業品		5	13	5	1	東北、東京、兵庫	4
	繊維工業品		4	18	1		東京、中部、大阪、兵庫	
	食料工業品		3	13	4	1	加工食品 東京、神奈川 その他の食料工業品	4
	日 用 品	1	6	10	4	1	その他の日用品 東京、大阪、兵庫 書籍・印刷物、衣服	4
	そ の 他		4	11	7		東京、大阪、兵庫、福岡 関東	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2 . 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 831 社 / 調査対象事業者数 1,046 社）の輸送量は、前月比 95.4%、前年同月比 103.5%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前 月 比	95.4%	97.2%	93.2%	95.0%	97.0%	96.3%	96.5%	92.3%	97.3%	92.2%	102.8%
前年同月比	103.5%	110.4%	98.3%	97.6%	107.4%	100.5%	103.5%	104.3%	99.4%	104.0%	92.3%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、対前月比97.2%、対前年同月比110.4%であった。品目別には、季節的需要増等により「畜産品」 「化学肥料」、「動植物性飼・肥料」等の輸送量が増加した。一方、建設関連の需要減等により「木材」、「砂利・砂・ 石材」等の輸送量が減少したほか、季節的需要減等により「その他の農産品」、「揮発油」、「廃棄物」等の輸送量にも 減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月は減少傾向、以降は増加傾向と予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送は、対前月比93.2%、対前年同月比98.3%であった。品目別には、建設関連の需要増等により「金属製 品」の輸送量が増加したほか、季節的需要増等により「食料工業品」の輸送量にも増加がみられた。一方、輸出入減 等により「木材」、「化学薬品」、「紙・パルプ」等の輸送量が減少したほか、倉庫への入出庫減により「穀物」の輸送 量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送は、対前月比95.0%、対前年同月比は97.6%であった。品目別には、季節的需要増により「野菜・果物」 の輸送量が増加したほか、「日用品」の輸送量にも増加がみられた。一方、工場・生産地からの貨物減等により「機械」 、「紙・パルプ」、「食料工業品」の輸送量が減少したほか、季節的需要減等により「動植物性飼・肥料」の輸送量にも 減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、対前月比97.0%、対前年同月比は107.4%であった。品目別には、工場・生産地からの貨物増等によ り「その他の石油製品」の輸送量が増加した。一方、建設関連の需要減等により「木材」、「砂利・砂・石材」、「セ メント」等の輸送量が減少したほか、工場・生産地からの貨物減等により「機械」の輸送量にも減少がみられた。今 後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送は、対前月比96.3%、対前年同月比は100.5%であった。品目別には、季節的需要増により「日用品」 等の輸送量が増加した。一方、季節的需要減により「金属鉱」、「砂利・砂・石材」の輸送量が減少した。今後の輸送 見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、対前月比96.5%、対前年同月比は103.5%であった。品目別には、季節的需要増等により「金属製 品」、「化学薬品」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減により「日用品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通 しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送は、対前月比92.3%、対前年同月比は104.3%であった。前月の反動で「木材」、「鉄鋼」、「金属製品」 、「機械」、「その他の石油製品」、「繊維工業品」、「日用品」等、多くの品目で輸送量の減少がみられた一方で、季節的 需要増等により「野菜・果物」、「食料工業品」等の輸送量は増加した。対前年同月比が大幅に伸びているのは、少な からず暫定税率の一次撤廃が影響していると思われるが、今後の輸送見通しは暫定税率復活の影響等により、次月及 び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送は、対前月比97.3%、対前年同月比は99.4%であった。品目別には、季節的需要増等により「食料工業 品」、「日用品」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減により「野菜・果物」、「金属製品」、「揮発油」の輸送量が 減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比92.2%、対前年同月比は104.0%であった。品目別には、季節的需要増等により「野菜・果 物」の輸送量が増加したほか、倉庫への入出庫増等により「金属くず」の輸送量にも増加がみられた。一方、建設関 連の需要減等により「砂利・砂・石材」、「金属製品」、「その他の窯業品」等の輸送量が減少したほか、季節的需要 厳冬により「セメント」、「日用品」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向 と予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、対前月比102.8%、対前年同月比は92.3%であった。品目別には、季節的需要減により「取り合 わせ品（引越貨物）」の輸送量の減少がみられたが、「機械」の輸移出の増加等によって、前月に比して全体の輸送量は 増加した。今後の輸送見通しは、次月は減少傾向、以降は横這い傾向と予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局										
		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	1			1		1	1				4
	減		3		2			1		1		7
2. 野菜・果物	増			1	1	1		2	1	7	1	14
	減						1		3	1		5
3. その他の農産品	増		1	1		1				2		5
	減	3				1		1		1	1	7
4. 畜産品	増	2						1		1		4
	減									1		1
5. 水産品	増	2		1						2		5
	減	1	1					1		1		4
6. 木材	増	1										1
	減	5	3		3			4		2		17
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増	1	1					1		1		4
	減											
9. 金属鉱物	増											
	減		1			1						2
10. 砂利・砂・石材	増	5						1		1		7
	減	10	1		2	1	1	2		8		25
11. 工業用非金属鉱物	増	1	1				1	1				4
	減							1	1	1		3
12. 鉄鋼	増		1		3			1		3		8
	減	1	2	1	3		1	8		2		18
13. 非鉄金属	増				1					1		2
	減											
14. 金属製品	増		2				4	2				8
	減	1	1		1	1	1	3	1	3	1	13
15. 機械	増	1	1	2			1	1		1	1	8
	減			3	3			4		2		12
16. セメント	増	2	1		1							4
	減	3	1		2			5	1	9		21
17. その他の窯業品	増				1		1	1	1	1		5
	減		1					3	1	4		9

品目		運輸局										
		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
18. 揮発油	増	1			1							2
	減	3	1	1					1			6
19. その他の石油製品	増	1	1		3					1		6
	減	1		1	1			2		1		6
20. コークス・その他の石炭製品	増											
	減											
21. 化学薬品	増				1	1		1				3
	減		2		1			4				7
22. 化学肥料	増	4	1							1		6
	減							1		2		3
23. その他の化学工業品	増				1	1	5					7
	減				1	1	4		3			9
24. 紙・パルプ	増			1				2				3
	減	2	2	2				1		1	1	9
25. 繊維工業品	増								1			1
	減						1	2				3
26. 食料工業品	増	1	4	1	1		2	13	5	2	1	30
	減	1	3	2			2	4	1	3	1	17
27. 日用品	増	2		2	2	2		1	4	1		14
	減	1		1	1		1	5	1	5		15
28. その他の製造工業品	増						1			1		2
	減	1	1				1	2		2		7
29. 金属くず	増			1						2	1	4
	減											
30. その他のくずもの	増		1							1		2
	減											
31. 動植物性飼・肥料	増	5	1							1		7
	減	1	3	2				2		2		10
32. 廃棄物	増	1						1				2
	減	4			1			1		1		7
33. 輸送用容器	増	1			1							2
	減											
34. 取り合せ品	増	2		1		1		1			1	6
	減	2	2		1		2	2		3	3	15
35. その他	増		1		1		2	1	1	4		10
	減		1		3	4	3	3	1	3		18